OLYMPUS
Your Vision, Our Future

2014年3月期 第1四半期決算概況

オリンパス株式会社
取締役専務執行役員　グループ経営統括室長
竹内　康雄

2013年8月8日

●オリンパスの竹内です。

●それでは、オリンパス株式会社　2014年3月期第1四半期決算の概況を、ご説明申し上げます。

2014年3月期 第1四半期
連結業績および事業概況

Copyright Olympus Corporation

●まず、連結業績についてご説明いたします。

2014年3月期 第1四半期 ①連結業績

✓ 医療事業が好調に推移し、全社業績を牽引。大幅な営業増益を確保（前年同期比約4倍）
✓ 期初（5月）公表計画に沿った進捗

（単位：億円）	2013年3月期 1Q	2014年3月期 1Q	増減額	前年同期比	特殊要因調整後(*)
売上高	1,895	1,592	△303	△16%	+3%
販管費	845	859	+14	+2%	-
（販管費率）	(44.6%)	(54.0%)	(+9.4pt)		
営業利益	21	82	+60	+286%	+250%
（営業利益率）	(1.1%)	(5.1%)	(+4.0pt)		
経常利益	△2	24	+26	-	-
（経常利益率）	(-)	(1.5%)	(-)		
当期純損益	△45	△18	+26	-	-
（純利益率）	(-)	(-)	(-)		

＜為替レート・影響額＞

円/US$	80円	99円	19円（円安）
円/Euro	103円	129円	26円（円安）
売上高への影響額	-	+234億円	（＊）「為替」「情報通信事業譲渡」「子会社整理」等の影響を除いた前年同期比
営業利益への影響額	-	+18億円	

Copyright Olympus Corporation

- この第1四半期は、情報通信事業を昨年9月に譲渡したことを主な要因として、売上高は、前年同期比16%減の1,592億円となりました。
- 営業利益は、好調な医療事業が全社業績を牽引し、前年同期比約4倍の82億円と大幅な増益という結果でした。

- 為替は、ドルが前年同期比 約19円、ユーロは約26円の円安となり、売上高に対して234億円、営業利益に対して18億円プラスに寄与しています。
- また、事業譲渡や為替影響などの特殊要因を除いた主要事業の実質ベースの状況は、売上高で前年同期比3%の増収、営業利益は約3.5倍となります。

- 四半期純損益については、刑事裁判の判決を受けた罰金等の特別損失を合計10億円計上したことに加え、日英間の過去の移転価格調整に伴う法人税15億円を含み、法人税を合計で約34億円計上したことから、18億円の損失となりました。

- なお、売上高、各利益とも期初、5月に公表した年間計画にほぼ沿った進捗状況であると見ています。

2014年3月期 第1四半期 ②セグメント別業績

✓ 医療事業が前年同期比で大幅増収増益。映像事業も営業損益が改善。

（単位：億円）

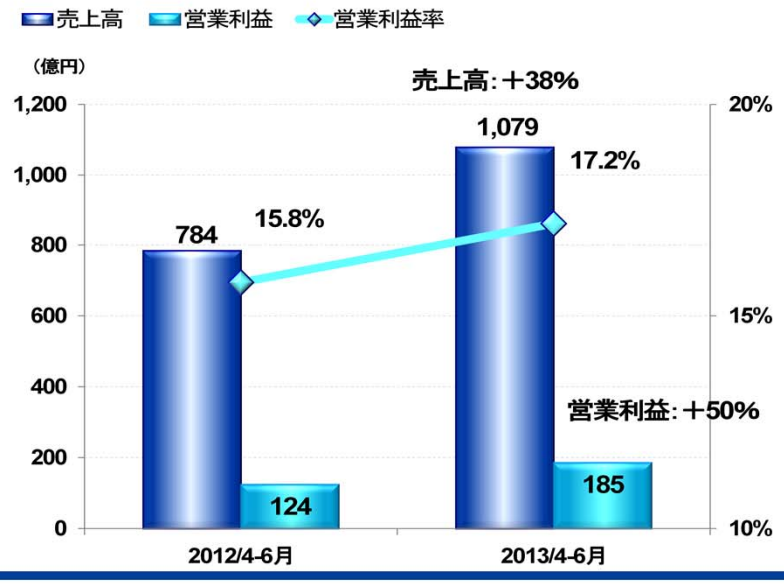
		2013年3月期 1Q	2014年3月期 1Q	増減額	前年同期比
医療	売上	784	1,079	＋295	＋38%
	営業利益	124	185	＋61	＋50%
ライフ・産業	売上	177	199	＋23	＋13%
	営業利益	△4	△10	△6	-
映像	売上	288	250	△39	△14%
	営業損失	△15	△6	＋9	-
情報通信	売上	539	-	△539	-
	営業利益	5	-	△5	-
その他	売上	107	64	△43	△40%
	営業利益	△11	△14	△4	-
全社・消去	売上	-	-	-	-
	営業利益	△78	△73	+5	-
連結合計	売上	1,895	1,592	△303	△16%
	営業利益	21	82	+60	＋286%

Copyright Olympus Corporation

- 続いて、セグメント別の損益状況です。
- 昨年から引き続き、医療事業が好調に推移し、会社全体の業績を牽引しています。この第1四半期における医療事業の売上高は、前年同期比38%、営業利益は同 50%と大幅な増収、増益を計上しました。
- 医療以外の事業につきましては、ライフ・産業事業で増収となったほか、再建中の映像事業において営業損失が大きく改善するなど、中期ビジョンの取り組みの効果が表れつつあります。
- それでは、主力の3事業について、もう少し詳しくご説明します。

2014年3月期 第1四半期 ③医療事業

✓ 新製品が好調に推移し、大幅な増収、増益を確保
✓ 第1四半期の売上高としては、初の1,000億円を超える数値を計上



Copyright Olympus Corporation

- まず、医療事業です。

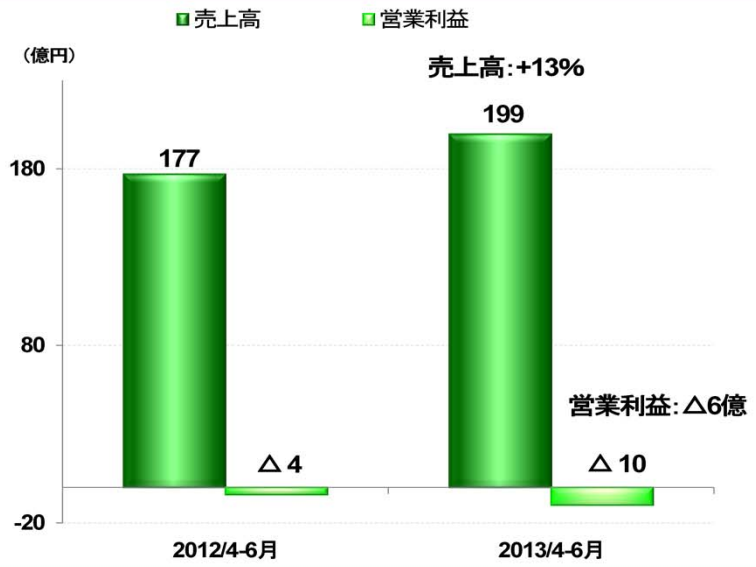
- 主力の消化器内視鏡分野において、欧米で昨年前半に投入した新製品の「エクセラ・スリー」、および国内で昨年後半に投入した新製品「ルセラ・エリート」が、引き続き売上拡大に大きく貢献しました。

- また、外科分野においても、国内外で投入した外科手術用の「ビセラ・エリート」の販売が好調に推移しました。

- この結果、第一四半期の売上高としては初めて1,000億円を超える数値を計上し、売上高は前年同期比 38% 増の1,079億円、営業利益は50% 増の185億円となりました。営業利益率についても、1.4ポイント改善し、17.2%となりました。

2014年3月期 第1四半期 ④ライフ・産業事業

✓ 新製品の販売やマクロ環境の改善等により増収

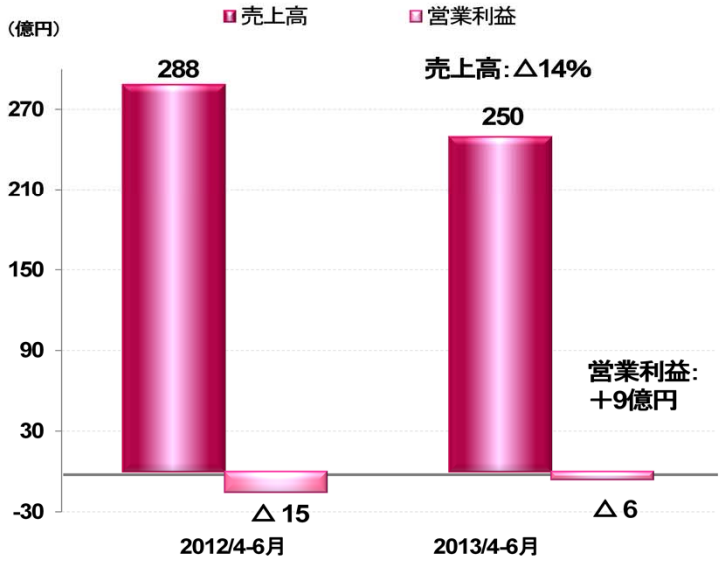


Copyright Olympus Corporation

- ライフ・産業事業です。
- 売上高は、前年同期比 13%増収の199億円、営業利益は、10億円の損失となりました。
- 前期後半から、景気の回復基調を背景として、需要に改善傾向が見られる中、ライフ分野・産業分野ともに昨年投入した新製品が堅調に推移し、増収に寄与しました。
- 一方で、海外の製造拠点統廃合などを中心に、昨年から生産構造改革を進めてまいりましたが、今後の新製品販売強化の方針から販促費用等を増加させたことで、営業利益の改善には至りませんでした。
- 第2四半期以降は、引き続き市場から高い評価を頂いている新製品の拡販と、生産構造改革の効果を業績に結びつけ、収益の本格的な回復を図りたいと思います。

2014年3月期 第1四半期 ⑤映像事業

✓ 事業再建策により、営業損益が改善
✓ ミラーレス一眼は前年並みの売上高を確保



事業再建策の主な進捗

◆ **コンパクトカメラのリスク極小化**
- コンパクトカメラの13年秋新製品は、大幅に絞込み
- 旧モデルコンパクトの在庫は前期末から60%圧縮(台数ベース)

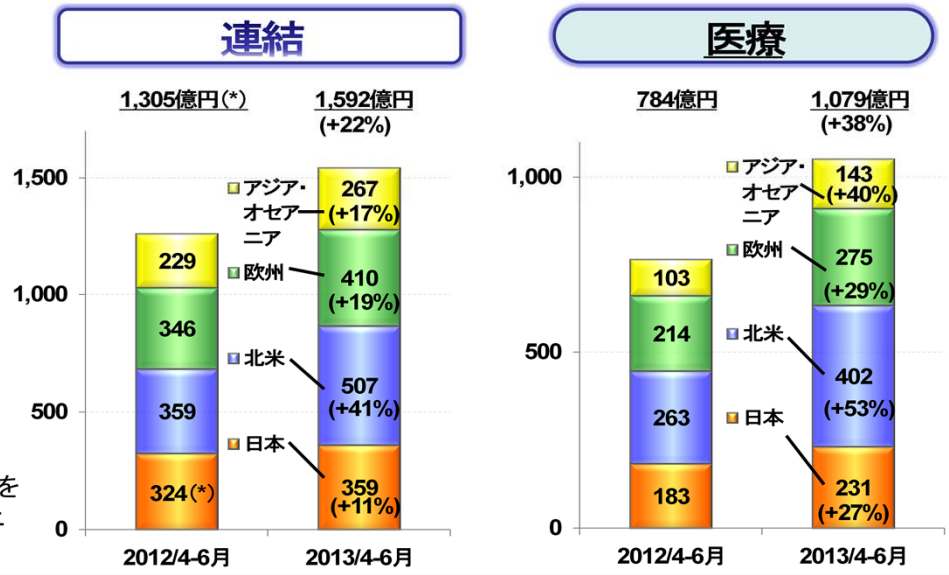
◆ **事業規模に見合った費用構造の構築**
- 映像事業の製造機能再編:5拠点から2拠点へ集約は、1拠点は完了、残る2拠点も下期前半に完了予定

Copyright Olympus Corporation

- 映像事業です。
- 売上高は、前年同期比 14%減収の250億円、営業利益は6億円の損失となりました。
- コンパクトカメラ市場の急激な縮小が続き、依然として大変厳しい事業環境でしたが、「リスクの極小化」を基本方針とした事業再建策を着実に実行し、営業損失は昨年同期から9億円改善しました。これまで拡大傾向にあった営業損失も、改善方向へと転換しております。
- 当社が注力しているミラーレス一眼については、6月末の新製品販売を前に買い控えがあったことや、新製品投入が若干遅れたことから、販売台数は減少しましたが、OM-Dを中心として売上高は堅調に推移しました。
- また、5月に発表した事業再建策の進捗もご報告します。
- コンパクトカメラのリスクを極小化させるため、低価格コンパクトカメラの開発を中止し、13年秋の新製品は大幅に絞り込みました。旧モデルの在庫も積極的に販売を進め、台数ベースで前期末比 60%減と大幅に圧縮しています。
- また、事業規模に見合った費用構造への転換に向けて、製造機能の再編を進め、期初に集約を見込んだ3拠点のうち1拠点は完了し、残る2拠点も下期前半には完了できる見込みです。
- 引き続き、通期での目標達成に向けて取り組みを進めてまいります。

2014年3月期 第1四半期 ⑥仕向地別売上高

✓ 医療事業は全地域で大幅な増収となり、全体を大きく牽引



(*)
2013年3月期中に事業譲渡等を行った情報通信事業等の売上高を控除した数値

Copyright Olympus Corporation

●地域別の売上高はこちらの通りです。

● 好調な医療事業が全体を大きく牽引し、全地域で大幅な増収となりました。

● 右側の棒グラフは医療事業の実績ですが、国内は27%増、北米は53%増、欧州は29%増、アジアは40％増と全地域で大幅な成長を見せています。

貸借対照表（2013年6月末）

✓ 有利子負債を3月末比で約900億円圧縮
✓ 自己資本比率が3月末より3.4ポイント改善、約19%まで回復

（単位：億円）	2013年3月末	2013年6月末	増減		2013年3月末	2013年6月末	増減
流動資産 （デジカメ在庫）	5,410 (236)	4,612 (252)	△798 (＋16)	流動負債	3,169	2,537	△631
有形固定資産	1,298	1,313	＋15	固定負債 （内：社債・長期借入金）	4,915 (4,229)	4,707 (3,978)	△208 (△250)
無形固定資産	1,746	1,774	＋28	純資産	1,519	1,704	＋185
投資その他資産	1,148	1,249	＋101	（自己資本比率）	(15.5%)	(18.9%)	(＋3.4pt)
資産合計	9,602	8,948	△654	負債 純資産 合計	9,602	8,948	△654

有利子負債　：4,718億円（2013年3月末比　△886億円）
純有利子負債　：3,243億円（2013年3月末比　△ 65億円）

Copyright Olympus Corporation

- バランスシートの状況です。
- まず、有利子負債ですが、前期末から約900億円圧縮しました。
- 自己資本比率は、円安による為替換算調整勘定が前期末比で約180億円改善したことや、負債の圧縮を進めたことで、約19%まで回復しました。
- デジタルカメラの在庫は、6月末で約252億円でした。金額ベースでは、PEN新モデルを中心としたミラーレス一眼の戦略在庫により増加しましたが、先ほど申し上げたとおり、台数ベースでは、旧モデルのコンパクトを中心に着実に圧縮しております。

キャッシュフローの状況（2013年4月～2013年6月）

（単位：億円）	2013年3月期 1Q	2014年3月期 1Q	増減
売上高	1,895	1,592	△303
営業利益	21	82	＋60
（%）	1.1%	5.1%	＋4.0pt
営業CF	131	115	△15
投資CF	△84	△65	＋19
財務CF	3	△937	△939
キャッシュフロー	50	△887	△837
フリーキャッシュフロー	47	50	＋3
現金及び現金同等物期末残高	1,996	1,424	△572
減価償却費	78	87	＋9
のれん償却額	27	23	△4
設備投資額	79	79	0

Copyright Olympus Corporation

- キャッシュフローの状況についてご説明します。
- 営業キャッシュフローは、法人税等の支払額67億円や、利息の支払額20億円等によるマイナス要因がありましたが、税前利益で15億円確保したことに加えて、減価償却費87億円、のれん償却費23億円等の非資金項目を主要因として115億円のプラスとなりました。
- 投資キャッシュフローは、65億円のマイナスでしたが、これは主に設備投資関連の支出によるものです。
- 以上により、フリーキャッシュフローは、前年同期比3億円増となる50億円のプラスを計上しています。
- なお、短期および長期借入金の早期返済を進めたことで、財務キャッシュフローは937億円のマイナスとなりました。

2014年3月期業績見通し

Copyright Olympus Corporation

- 続いて、2014年3月期の、第2四半期累計、年間の見通しです。

2014年3月期 連結業績見通し

✓ 5月に公表した年間計画に沿った業績動向（上期、年間計画の変更なし）
✓ 第2四半期累計、年間ともに、営業利益以下の全利益項目で大幅な増益見通し

（単位：億円）	2014年3月期 第2四半期累計	前年同期比	2014年3月期 通期	前年比
売上高	3,350	△17%	7,000	△6%
営業利益 （営業利益率）	270 （8.1%）	＋50%	710 (10.1%)	＋102%
経常利益 （経常利益率）	175 （5.2%）	＋137%	480 (6.9%)	＋268%
当期純利益 （当期純利益率）	100 （3.0%）	＋25%	300 (4.3%)	＋ 274%

為替レート ： ドル = 90円、ユーロ = 120円

Copyright Olympus Corporation

- 期初、5月に公表した連結業績見通しに変更はありません。
- 情報通信事業の譲渡をはじめとした非事業ドメイン整理の影響により、売上高は減収となる見込みですが、利益面では、営業利益以下の全項目について、大幅な増益を見込んでいます。
- なお、為替レートについても期初から据え置き、ドルは90円、ユーロは120円を想定しています。

2014年3月期 セグメント別業績見通し

（単位：億円）		第2四半期累計	前年同期比	通期	前年比
医療	売上	2,230	＋27%	4,700	+19%
	営業利益	460	＋23%	1,010	+16%
ライフ・産業	売上	460	＋21%	1,000	+17%
	営業利益	15	＋38%	70	+99%
映像	売上	530	△5%	1,040	△3%
	営業利益	0	-	0	-
その他	売上	130	△39%	260	△38%
	営業利益	△35	-	△50	-
全社・消去	売上	-	-	-	-
	営業利益	△170	-	△320	-
連結合計	売上	3,350	△17%	7,000	△6%
	営業利益	270	＋50%	710	+102%

Copyright Olympus Corporation

- セグメント別にはこちらの通りです。

- 引き続き新製品の大幅な販売拡大が見込まれる医療事業、およびマクロ環境の改善を追い風に、昨年投入した新製品をドライバーとするライフ・産業事業においては、増収、増益を確保できる見込みです。

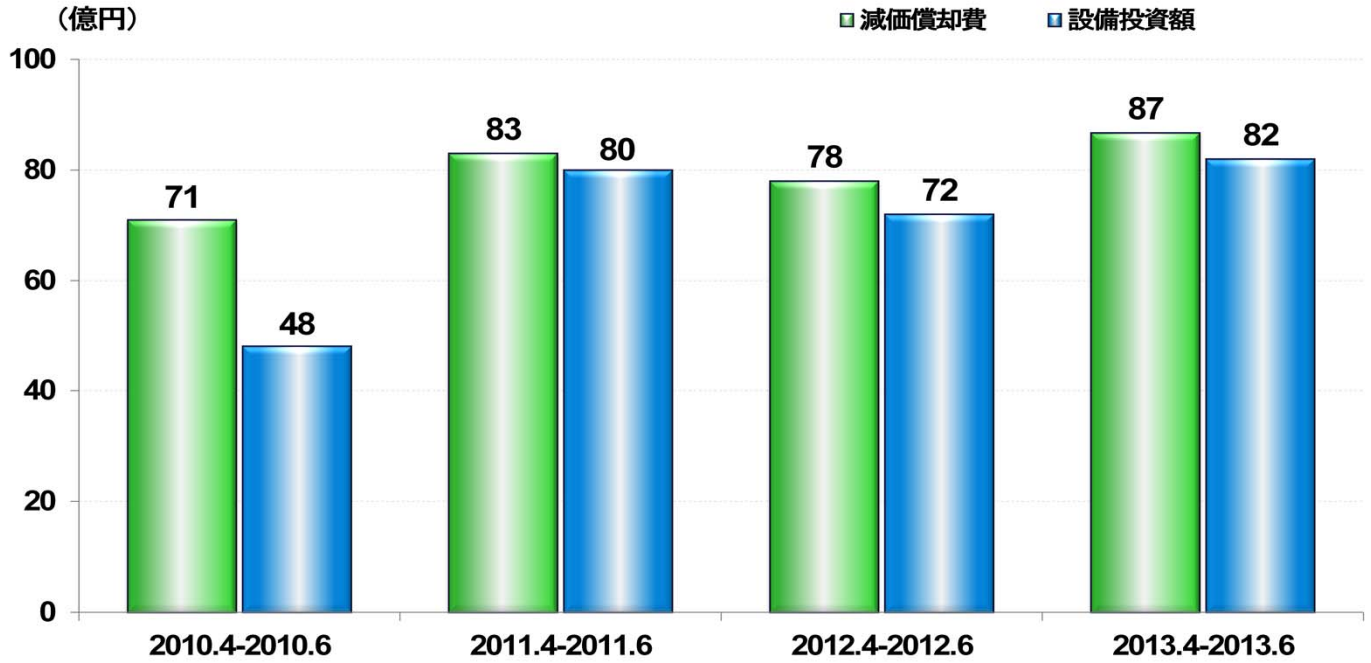
- コンパクトカメラのリスク極小化を進める映像事業の売上高は縮小する見通しですが、営業利益は収支均衡を目指します。

Copyright Olympus Corporation

参考資料

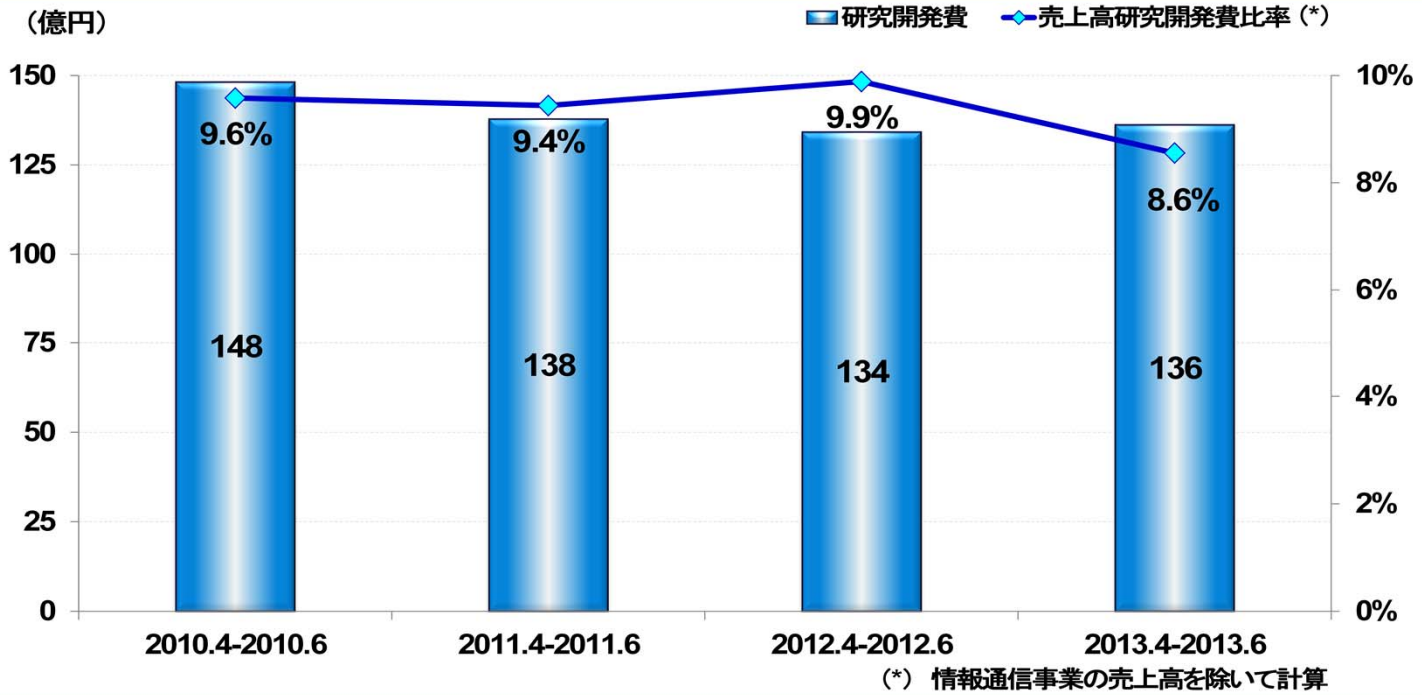
Copyright Olympus Corporation

設備投資・減価償却費



Copyright Olympus Corporation

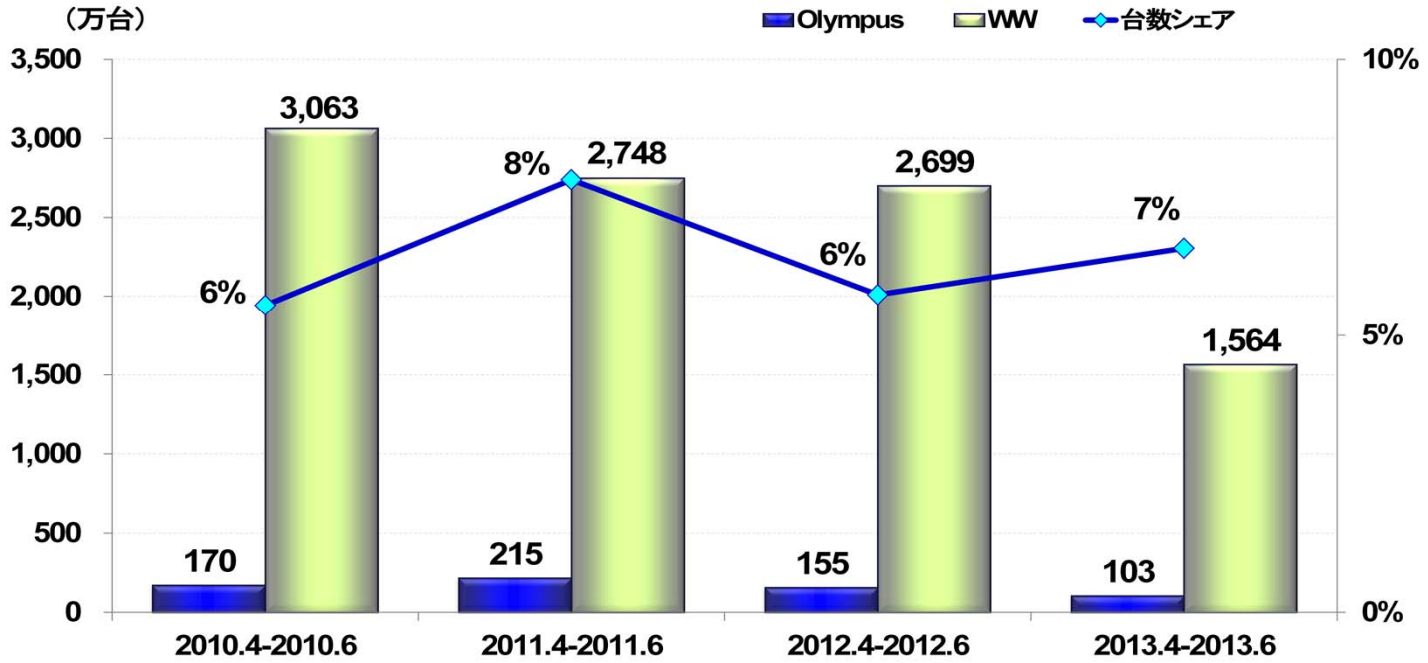
研究開発費



（*） 情報通信事業の売上高を除いて計算

Copyright Olympus Corporation

デジタルカメラ



Copyright Olympus Corporation

本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

Copyright Olympus Corporation

Copyright Olympus Corporation